

私の教訓

私が教師として、親として大切にしている話や言葉を紹介したい。なお、捉え方は諸説あるため、御自身で都合よく解釈していただければ幸いである。

『北風と太陽』

私はこの童話の教訓を教育と照らし合わせ、「強制的な方法で手っ取り早く子どもの言動を変えようとするのではなく、子どもの気持ちに寄り添い、本人の意思で望ましい言動を行えるようにすることが大切だ」と解釈している。実はこの話には、「帽子」をめぐるもう一勝負がある。太陽がいくら照らしても強い日差しを避けようと旅人は深く帽子をかぶってしまうが、北風は一瞬で帽子を吹き飛ばしてしまったという話だ。これを知って少し複雑な気持ちになったが、要は相手や状況によっては手段を工夫することも必要だという戒めなのだろう。

『馬を水辺に連れて行くことはできても、水を飲ませることはできない』

英国の諺だが、教師ができること、すべきことの範囲を見誤ってはならぬと自分に言い聞かせている。必要なサポートはできるが、最後に行動を起こせるのは子ども自身の意思だと忘れてはならない。

『凡庸な教師は指示をする。良い教師は説明をする。』

『優れた教師は範となる。偉大な教師は内なる心に火をつける。』

米国の教育学者ウィリアム・ウォードの言葉も感慨深い。子どもの内から発せられる「学びたい、成長したい、〇〇したい」という気持ちに火をつけるような教育ができれば、どんなにその子の将来のためになるだろう。

そしてこれらは大人にも当てはまると考えている。私は小学校教諭として十数年働き、教育委員会を経て文部科学省の研修生となったが、これまでを振り返ると、北風というより台風というかむしろ童巻の中で仕事をしていた時期もあった。そういった経験を踏まえて思うのは、大人同士も年齢や立場は違っても「太陽」の心で人と接することが大切だということ。幸いにも現在私が所属する課の職員は、全員が穏やかである。だからこそ、職員は素直に意見を述べることができ、報告・連絡・相談にも躊躇がない。素晴らしい職場環境だと思う。

私もいつか管理職となった時には、常にこれらの言葉を傍らに働きやすい職場を築いていこうと心に誓っているが、かくいう私も我が家で愚図る息子に「9時までに寝ないと明日遊びに行かないよ!」と賞罰で言うことをきかせようとしてしまい、自己嫌悪の日々を送っている。「言うは易く行は難し」この言葉も加えておこう。

(H・K)